

エコニュース さって



第 57 号
平成 26 年 12 月 17 日
さって市民環境ネット
TEL 48-0331

平成 26 年度エコライフ DAY 報告

報告：中山

埼玉県が主導し県下全市町村で実施されている「エコライフ DAY」運動は、平成 17 年度より開始し、当幸手市でも最初から参加し、今年 10 年目を迎えることになりました。県ではエネルギーの消費が多い夏と冬の 2 回に分けて実施していますが、私たちは夏のみの参加となっています。近年、県下の小中学校の児童、生徒、父兄、企業の従業員、行政の職員、一般家庭の方々等々年間で 200 万人を超える方々が参加し、本運動の広がりを示しております。

「エコライフ DAY」運動は、地球温暖化防止のため日常の生活を見直し、出来るだけエネルギーの消費を抑え、無駄に資源の浪費を避けるきっかけ作りとして取り入れられた活動です。真夏の一日に関し省エネルギーや節約したことをチェックシートに記載し、それにより削減された温室効果ガス（主として CO₂ 量）を算出します。特に一般家庭部門が出す温室効果ガスは産業部門、運輸部門等に比較し増加している傾向にあり、家庭での削減が求められています。

地球温暖化は、国連機関の IPCC（気候変動に関する政府間パネル）が度々警告を発して、世界各国に温暖化防止の具体的対策を取るよう求めています。各国の事情が複雑に絡み合いなかなかスムーズに進んでいません。当機関では、いろいろな科学的知見に基づき今世紀末での試算を数ケースに分けて発表しています。対策が上手に取られないケースでは、地球の平均気温が今世紀末 4.8℃も上昇すると危機的状況を試算しています。現在世界中で発生している大型台風、熱波、異常寒波等々の異常気象は温暖化によるといわれ、その原因が化石燃料を大量に消費する我々人間活動に起因することが明確になったと最新の報告書で述べています。

私たちは、市・環境課と協力し、「幸手市エコライフ DAY 実行委員会」を組織し、毎年 7,8,9 月の夏季期間、市内全小学校、中学校にエコライフ DAY チェックシートを配布し、それを家庭でチェックしてもらいそのシートを回収してきました。また、学校以外では、市内の全公民館、市役所職員、主な団体、そして工業団地各社等にチェックシートを配布、回収を行い市全体として集計を行いました。

今年度は、5,932 名の方が参加し、削減 CO₂ は 4,020 kg となりました。対人口比の参加率は 11.2% です。東日本大震災のあった年は、市民の省エネ意識も高まり、7,725 名（参加率 14.5%）もの方々が参加しましたが、年々参加率が減少し、残念です。過去の実績を示します。

年	参加人数（人）、	参加率（%）	削減 CO ₂ （kg）
H26 年	5,932	11.2	4,021
H25 年	6,499	12.3	4,468
H24 年	7,140	13.5	4,417

第 2 回市民環境講座「環境見学会」

報告：高久、藤城

熊谷地方気象台及びグリコピア・イースト工場の見学！

11月20日（木）前日までの暖かさから一転、真冬のような寒さの中、1年ぶりのバスでの環境見学会が開催されました。

今回の見学会は、埼玉県の気象に関するセンター的な役割をもつ「熊谷地方気象台」（熊谷市）とお菓子のメーカーである「グリコピア・イースト」工場を見学しました。参加者は一般参加者 29 名とスタッフ（環境課）2 名でした。市役所に 9 時に集合し、バスで熊谷に向け出発、途中車中で「さちネット」から気候変動に伴う「地球温暖化現象」と「エコライフDAY」に関する説明をしました。熊谷地方気象台には予定通り 10 時 30 分に到着しました。

先ず、会議室にて広報担当官から気象台の歴史と観測内容及び設置機器についてスライドを使用して説明を受けました。明治 29 年（1986 年）に埼玉県内で初めて設置された経緯や観測所としての適地で（周辺に高い建物が無い）、また、現在県内では、気温を観測している場所が 8 か所あるとのことでした。

私達が一番の関心ごとは、毎日報道されている日常生活に必要な“天気予報”のことでした。気象用語の説明とともに幸手周辺に関して詳しく説明して頂きました。“あついぞ！熊谷”と言われているが、その原因は都市部で温められた空気（所謂、ヒートアイランド現象）が東京湾岸からの風で内陸部に移動し、群馬や秩父の山々に遮られて関東北部（群馬、埼玉）の上空で滞留するからだそうです。また、一方で群馬や秩父の山々からの風が、山地を通ってくる間に、フェーン現象で熱い乾燥風が吹き付けるためだそうです（地形の特徴から熊谷や館林が丁度溜まり場になる）。

また、大正 6 年には“かぼちの大きさのひょう”が降ったとの話があり参加者は皆びっくりしました。続いて屋外に移動して、観測露場と言われる中庭に設置されている各種観測器の説明を受けました。感雨器、転倒ます型雨量計、温度計・湿度計、積雪計、やウィンドプロファイラーという天上に電波を出し、約 8000m 上空までの風向きと強さを測る機械も設置されていました。転倒ます雨量計では、実際にジョウロで水を流して測ってみました。昔懐かしい百葉箱は現在は設置していないとのことでした。その他、屋上には風向風速計、日照計、室内では気圧計、計測地震計があります。こうした機器で観測されている様々なデータは 24 時間体制で中央気象台（東京）に送信され、我々市民に日々報道されています。そのことが国民の生命と財産を守り、安全で安心な暮らしをすることに大きな役割を果たしていることが良く理解でき、そして参加者と広報担当官との活発な質疑もあって大変有意義な見学会でした。



中庭に設置された観測機器の説明を熱心に聞く！ 最後に熊谷地方気象台に感謝を込めて記念写真！

午前中の熊谷地方気象台見学後、吉見の「道の駅いちごの里」での昼食を済ませ、午後は北本市の「グリコピア・イースト」へと向かいました。竣工してまだ 2 年の真新しい白い大きなビルの内部は白い壁とイメージカラーの赤が所々に使われていて明るく清潔な印象でした。さぞ多くの方が働いていると思いきや、1 日 3 交替で 600 人とのこと。正月

以外は年中休みなく稼働し、主にポッキーやプリッツを製造しています。「チョコレート製造部門は企業秘密でお見せできません！」とのことで残念でした。しかし長いベルトコンベアに乗った生地が400mを4分で移動し、こんがり焼かれて出てきて袋詰め、箱詰めとあっという間にできあがってくるスピードに驚きました。ベルトコンベアやロボットアームが休みなく正確に動いて機械化が進んでいるのに感心しましたが、最後のチェックは人間の目と手ですと説明があり、少しほっとしました。最後は2人一組で大きなスクリーンに映る早押しクイズに挑戦しました。グリコの社名はかき（牡蠣）のグリコーゲンから由来し、「子供達に栄養のあるお菓子を届けたい」との創業者の思いが込められているのを知りました。今、アジアやヨーロッパで人気上昇中の日本のお菓子がこの様に清潔な所で作られているのを見て“日本製ってすごいな”改めて見直しました。



往復のバスの中での講義もあり充実した1日でした。参加した方々から「年に1度のバスでの見学会は毎回楽しみにしています。次回も楽しみに待っています。」との声が多く聞かれました。事務局の環境課にはお世話になり有難うございました。

安心・安全な最新鋭の省エネ機器を見学、おみやげも頂き満足！

「行幸湖浮きウキフェスタ26」が開催される

報告：久保田

—おだやかな秋晴れのもと、2300名の方が来場—

平成26年10月18日（土曜日）、「行幸湖浮きウキフェスタ26」が権現堂1号公園（多目的運動広場）で開催されました。一昨年は雨、昨年は台風一過の強風でテントが飛ばされるなど天候には恵まれませんでした。今年も風も雲もなく快晴、最高のイベント日和でした。

イベントの内容を見てみますと、やきそば、とん汁などの飲食模擬店や、自社の活動内容や商品を展示しアピールする団体、企業の出展は15ブースを数えました。また、さて市民環境ネット、とよあしはら、ごか・川の会による「浮島づくり体験」への参加者はいつも参加してくれる「緑台子ども会」や、今年初めて参加する「栗橋ボーイスカウト」など総勢166名で、製作した浮島は5基。「カヌー・ドラゴンボート体験」には310名の参加者がありました（カヌー110名、ドラゴンボート200名）。さらに、幸手桜高校演劇部による元気いっぱいの「ちんどんパレード」、JazzImpulseとピタゴラスによるバンド演奏、獨協大学の学生が協力してくれた、幸手市の「さっちゃん」、五霞町の「ごかりん」、キュービーからの「たらこキューピー」、ヤクルトの「ヤクルトくん」による「ゆるキャラパフォーマンス」もあり、来場者を楽しませました。

今年もまた、会場のレイアウトを大幅に変更しました。企業、団体の出店テントを中央の広場から移動して、芝生のある場所の通路に沿って立て、中央の広場では浮島づくりを行いました。これによってイカダ組みや炭袋詰めなどの浮島づくりの作業が、来場者によく見えることとなりました。進水式を行う行幸湖の護岸からは、例年より距離がありますので、

竹のレールをつないで護岸に移動するイカダも、結果的に来場者の目を引くところとなり、おおいに浮島をアピールすることができました。

さって市民環境ネットが関与する「浮島づくり」は、今年で10年目の節目を迎えました。ここで、行幸湖における「浮島づくり」について振り返ってみます。「浮島づくり」のスタートは、いまから10年前の平成17年11月にさかのぼります。埼玉県が「浮島づくり」をNPO協働提案推進事業のひとつに取り上げ、NPO法人与よしはらに委託、幸手市環境課を通じて「幸手市民環境会議」（さちネットの前身団体）に開催協力の依頼がありました。幸手市民環境会議は、市民団体や行幸湖周辺の企業に協力を働きかけ参加者を募集、2基の浮島をつくることができました。こうしてさちネット主体の浮島づくりが4年間続き、合計7基の浮島が行幸湖に浮かびました。

5年目の平成21年、埼玉県の水辺再生事業にこの行幸湖の浮島づくりが取り上げられ、県のイベント「浮きウキフェスタ」となり、浮島づくりはフェスタの一イベントという位置づけとなり今日まで続いています。この10年で作られた浮島は、60基を超えました。行幸湖のアオコは、これだけのこの台数の浮島の効果もおよばず毎夏発生していますが、行幸湖の景観はこの浮島で大きく変わり、湖内にアシの生えた島が点在するところとなり、野鳥やカメのすみかともなり、人工的な護岸を持った行幸湖を、自然豊かなものに近づける役割を担っています。この浮島づくり、まだまだ続けていこうと考えています。



まずはイカダ組み作業の説明！



4人のゆるキャラと一緒に、浮島作ったぞー！



カヌーに乗れて楽しかった！



ドラゴンボートは太鼓に合して左右揃えて漕いで！

【会員募集中！】 環境保全活動と一緒にやっていただく方を募集しております。

是非、貴方も参加しませんか。〔さって市民環境ネット〕

★問い合わせ・申し込み ★ 澤村 邦夫(代表)まで TEL 0480-42-3384

幸手の環境活動グループ： 幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、倉松探検隊、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、子育て支援ねっとわーく、いきがい・はなみずきの会(いきがい大学伊奈学園 20 期)